

カギ握るインターネット利活用

デジタル家電

今年最大のキートピックはインターネットの利活用となりそうだ。スマートフォン（多機能携帯電話）やタブレット型パソコンに加えて、薄型テレビやブルーレイディスク（BD）レコーダーでもネット接続機能が急速に

広がっている。クラウドサービスなどネット世界のイノベーション（技術革新）の恩恵が個人や家庭でも本格的に享受できる時代に入りました。年末商戦から来年に向けた家電業界のトレンドを追う。



タブレット

新規領域に膨らむ期待 機能・サービス・デザイン 独自色競う

11年のデジタル家電業界はスマートフォンとタブレット型パソコン中心に回っていると言っても過言ではない。特にタブレット市場はアップルの「iPad」（アイパッド）が切り開き、国内外の電機・IT大手がこぞ1年で軒並み参入した。家電量販店の店頭はまさに百花繚乱の様相を呈しており、業界にとってひさびさの新規領域に期待が集中している。

会場に並ぶタブレット製品は、大きな目玉は最後のソニーだろう。競合他社の参入ラッシュを静観してきた同社が、満を持して登場。その中でも、発売間近の「ソニータブレットPシリーズ」は来場者が大挙押し寄せる潜在能力を備える。

アップルを含めた他社のタブレットと線を画したデザインは異彩を放つ。そこには、映像やゲーム、電子書籍の独自配信サービスといった援護射撃もあり、各社差別化に苦戦している新市場で独自色を打ち出す。東芝は画面サイズが10.1型で厚さ7.7ミリと世界最薄最軽量級のタブレットを展示する見込み。タブレットの課題の一つが日々の持ち運びに向かない重量感であり、新製品はさらなる市場拡大を後押ししよう。

従来のパソコン感覚で映像など大容量データを通じて、タブレットは通信機能、高速ネットワークは必需品。NTTドコモの次世代携帯電話通信「LTE」サービスに対応した富士通製のタブレットも来場者の興味を引きそ。うだ。防水仕様のため、さまざまな生活シーンで利用可能な点も売りとなる。

一方で、黎明期ゆえに玉石混濁の観は拭えない。ここに来て、米ヒューレ

ソニーのタブレットは独特のデザインで異彩を放つ

広がるコンテンツの枠 モバイル機器から 薄型テレビ分野へ

デジタル家電業界のインターネット利活用は古くからある。その中でも、映画や音楽といったコンテンツの流通は、現在に続く流れをつくった。米アップルの「iPod（アイポッド）」や「iPhone（アイフォーン）」の登場で、音楽のダウンロードが主流となった。ネット上から音楽をダウンロードできる画期的な手法はその後、ゲームや映画、テレビ番組と、コンテンツの枠を拡大しながら急速に発展してきた。

モバイル機器が先行してきたネット活用の動きが2011年から薄型テレビ分野へと

本格的に浸透してきた。そのなかでも、映画や音楽事業を手掛けるソニーはいち早く、テレビやBDレコーダー向けに映像配信サービス「ソニーエンタテインメントネットワーク」に乗り出した。米欧に続いて、今年1月から国内でも映画などの配信を開始。以前から行っていた家庭用ゲーム機向けのゲーム配信サービスも将に統合される見込みで、個人のどんな家電製品からでも豊富なコンテンツを楽しめる環境を自社で

テレビ向けネット配信サービス



構築できるのが同社の大きな強みだ。

パナソニックも米国でテレビ向けにコンテンツやアプリを配信する「VIERA Connect」を今年春開始した。スポーツの生放送や映画以外に、「ツイッタ」や「フ」などのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）のアプリを導入して、地上デジタル放送などを受信するチューナが、リビンスタイルの中心に配置されるテレビは家電の主役であることに変わりはない。そのため、課金型のコンテンツ配信サービスに力を入れ、スマートフォンやパソコン、白物家電などのネット連携を強調して自社製品の販売につなげる思惑が隠れている。

この流れを逆手に取ったのがシャープ。9月から販売する「フリースタイル アクア」は、持ち運べる液晶テレビがコンセプト。地上デジタル放送などを受信するチューナが、リビンスタイルの中心に配置されるテレビは家電の主役であることに変わりはない。そのため、課金型のコンテンツ配信サービスに力を入れ、スマートフォンやパソコン、白物家電などのネット連携を強調して自社製品の販売につなげる思惑が隠れている。

家庭用蓄電池

もしもの時、経験 例年にない注目度



個人向けの蓄電池は東日本大震災の影響で、例年になく注目を浴びた。震災が引き起こした電力供給不足の問題は個人の節電需要を刺激した。モバイル機器向けにリチウムイオン2次電池を手がけるソニーとパナソニックは3月以降、当初の開発計画を前倒しして相次ぎ製品を投入した。

ソニーの家庭用蓄電池は、停電時にラジオで約25時間、40型以下の薄型テレビで最長2時間半駆動できる。人気の高まるスマートフォンなら、30回充電可能。燃料電池を利用した小型燃料電池を展示しており、今年の節電特需で新たな燃料電池の開発品をお披露目する可能性はあ

家庭用蓄電池は高まる節電需要を追い風に脚光を浴びる（ソニー）

メガネ不要の55型登場

3D



欧州で発売し、来年3月までに国内へ投入する世界の戦略商品だ。同社のブースは昨年と異なり、でも裸眼3D対応品を今夏に発売しており、他社とひと味違った3D製品展示に来場者の期待が集まっている。

欧州家電見本市で注目を集めた東芝の大型裸眼3Dテレビはシートックでも目玉

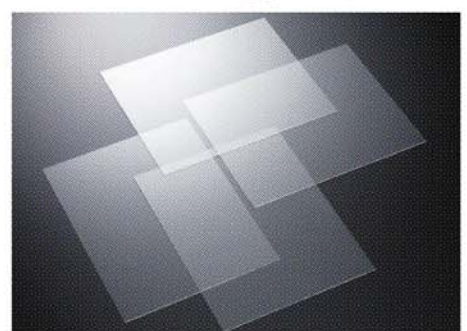
あああつ、スマホ危うし！

画面を衝撃から守る
強靱なガラスの登場です。

傷や落下衝撃に強い 携帯端末用高強度カバーガラス。

独自のガラス技術から、携帯端末向けのカバーガラス（CX-01）が誕生しました。従来ガラスにはない高強度を誇り、タッチパネルを傷や衝撃からしっかりと守ります。

化学強化専用ガラス CX-01®



「ガラス+強度」でもっと先へ。